

1. 「世界チョコレート夢公園」 オープン

昨年末、上海の浦東新区花木路に、チョコレート为主题にした娯楽施設「世界チョコレート夢公園」が、華々しくオープンしたので行ってみた。オープン期間は12月16日～2月19日までの約2か月間。館内には、チョコレートによって外灘の景色や、西安の兵馬俑、敦煌の仏像、その他チャイナドレス、陶器などが作られ、陳列してあった。たしかに精巧に作られていたが、チョコレートだけに真夏の期間では溶けてしまいそうで、この厳冬期だけに限って行われる意味がよく理解できた。その他、チョコレートの製作実演や販売、アトラクションなども行っていた。ただし入場料が1人=100元と、かなり高いということもあって、来場客はちらほらという状態であり、これでチョコレートの消費が急増すると思われるが、また著名な外国チョコレートブランド会社が共催しているわけでもないこの事業は、大赤字ではないかと思った。



2. 虹橋地区に大型コンベンション施設建設へ

上海市の沙海林副秘書長は、昨年9月、虹橋地区で進められているビジネスエリアの虹橋商務区内に、大型コンベンションセンター「中国博覧中心」を建設する計画を発表。予定投資額は230億元(約2760億円)、着工日や完成日は未定。用地面積は約104万㎡、屋内展示場面積は40万㎡。大型のコンベンション施設を増やすことで、国際会議やイベントの誘致を狙う。果たして、マンションバブル崩壊後も、この計画は続行されるのだろうか。

3. 「虹橋路駅」付近に「新・淮海坊」が開業予定

新聞に長寧区の淮海西路で新たな商業街が、今年の4月末にオープンするという記事を見たので、行ってみた。たしかにそこは、地下鉄3・4・10号線が乗り入れている「虹橋路駅」のすぐそばで、人通りが多く、商業街には好適だと思った。この商業街には高級ブランド50社あまりが出店する見通しだという。周辺にはまだ高級店は少なく、これも狙い所はよいのではないかと思った。それでもまだ開業4か月前なので、現場には入居者募集の看板があるだけだった。



4. 「楊浦区五角城」で、上海初の都市型アウトレットモール開業予定?

昨年9月、楊浦区五角城に上海初の都市型アウトレットモールが、年末にオープンする予定だという記事が、新聞に載った。新聞記事には、「楊浦区五角城でオープンを予定している商業施設、“綠色米蘭広場”に入居する」と書いてあったので、年明けに五角城に行き、「綠色米蘭広場」を探した。ところがその建物はなかなかみつからず、誰に聞いてもわからなかった。区の商業部門に問い合わせたが無駄だった。仕方がないので、「この近辺に、最近アウトレットモールができませんでしたか」と聞いてみたが、要領を得なかった。残念ながら、結局、「綠色米蘭広場」も、上海初の都市型アウトレットモールも探し出せなかった。

5. 「ブランドオフ」、南京西路に中国1号店オープン

日本企業の「ブランドオフ」が9月末、南京西路に1号店をオープンしたので、年明けに行ってみた。「ブランドオフ」は中古ブランド品の買い取り・販売を手がける企業で、中国の富裕層やホワイトカラーをターゲットに中国進出を決定。その1号店は繁華街というよりは、上海で古くから外国人がよく利用する有名なポートマンホテルなどの近くにあり、「上海展覽中心」の隣にあった。たしかにこの近くを通る外国人は多いだろうが、果たして上海の富裕層やホワイトカラーがここに買い物に来るだろうかと思ひながら、店内に入ってみ



た。平日の夕方5時ごろであったためか、お客さんは少なかった。それでもすでに南京東路に2号店がオープンしたという貼り紙がしてあり、かなり儲かっている様子であった。引き続き北京や大連の主要都市にも進出する予定だという。面白いことに、この店の棟続きで、香港の同業者「ミラノ・ステーション」が店開きしていた。同社も3年以内に、中国で24店舗を出店する計画だという。

6. 「クロスカンパニー」、中国2号店オープン

日本の新興アパレルメーカーの「クロスカンパニー」(岡山市)は、中国2号店を昨年12月9日、虹口区の商業ビル「龍之夢虹口店」にオープンした。昨年9月にオープンした人民広場のラッフルズ百貨店3階の1号店で、女性向け主力ブランド「アースミュージック&エコロジー」の売り上げが好調であり、年間計画の2倍のペースで推移しており、今回の2号店へのオープンになった模様。同社は今後3年間で、中国全土で120店舗の展開を目指す。



7. 東莞の衣料品製造メーカーの経営者夜逃げ：上海の直販店などすでに閉鎖

東莞市の有名衣料メーカーの、「東莞市原野服装」が1/02、倒産した。同社は先月30日まで通常運営を続けていたが、その後、経営幹部が夜逃げしたという。受注減などから資金繰りに行き詰まったものと思われる。負債は借入金と加工賃などで2000万元(約2億4千万円)以上。同社は、「異郷人」などのブランドで、全国に20か所の総代理店と1000店近い直販店を持っており、ピーク時には1000名近い従業員を抱えていた。なお「異郷人」ブランドは、「広東省著名商標」に指定されているほどだったが、近年の過当競争の中で、次第に苦境に追い込まれたようである。

上海にもかなりの数の直販店があったようだが、そのほとんどがすでに閉鎖されていた。ネット上には、市内の七浦路や東靖路などに店舗があると書いてあったので、まず七浦路に行ってみたが、その番地の周囲をくまなく探し、聞き回ったが見つげ出すことができなかった。次に東靖路に行ってみたところ、まだ「異郷人」の看板を掲げた店があったので、店内に入って様子を聞いてみた。その店では、すでに1年ほど前から、直販店の契約はしておらず、現在は他のメーカーの商品を取り扱っているということだった。



8. サンリオ、香港の商社に中国本事業を委託

ハローキティなどのキャラクターを持つサンリオの子会社:サンリオ上海は、これまで直接手がけていた中国本土事業を、今後、香港商社最大手の利豊傘下の企業に委託すると発表。サンリオは、本土事業の開拓は、中国系のネットワークがしっかりしている企業に任せの方が得策と判断した模様。

9. 上海のマンション販売、年明けも下落傾向続く

上海市統計局によると、同市のマンション販売面積は、1~11月では昨年対比17%減、11月単月では同33%減。この下落傾向は年明けも引き続いている。ネット情報によれば、1/05までのマンション販売件数は昨年対比80%減。この状況に不動産仲介業者は、豪華マンションの価格を15~20%値下げして売り出し、既購入者の抗議を抑えるためには、賠償金6億元を用意したという。

市内では、今までにはなかった下記のような光景を見かけるようになってきた。

- ・不動産仲介会社の社員が、街頭でマンション販売のチラシを撒くようになった。
- ・マンションの持ち主が、直接、街頭で看板を出して、マンション販売をするようになった。
- ・マンションの持ち主が、自分の住んでいるマンションの全部の入居者に、販売チラシを戸別配布するようになった。

以上